

令和7年度 県中国研 第2回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和8年2月18日（水）15:00～16:00

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 会長挨拶 (会長 泉中 河合 広映 先生)
- 2 令和7年度の活動の振り返りと令和8年度の活動の方向
 - ① 令和7年度の振り返りと令和8年度の活動について (不破中 小宅 陽久 主務)
 - ② 令和9年度西濃大会について (西濃大会実行委員長 揖東中 木下 隆一 先生)
 - ③ 令和8年度の研究の方向
令和7年度の総括及び令和8年度の研究について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)
話す聞く研究構想 (上石津学園 片山 博寿 話す・聞く部長)
書くこと研究構想 (瑞浪北中 山崎 雅 書くこと部長)
読むこと研究構想 (日枝中 上條 亘 読むこと部長)
言語文化研究構想 (蘇南中 加藤 祐輝 言語文化部長)
ぎふこくご賞論文の応募・結果に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
 - ⑤ 令和8年度代議員への引き継ぎについて (八幡中 上村 光一 総務部長)
 - ⑥ 会計部、広報部、情報部、編集部から
会計収支決算・予算について (草潤中 平岡 慶将 会計部長)
情報部の活動（NHK放送コンテスト）について (大垣市立北中 和田 光平 情報部長)
機関紙「ぎふこくご」について (藍川北学園 野々村 琢磨 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜教育事務所 教育支援課 学校教育係 指導主事 一川 宗弘 様
- 4 おわりの言葉 (会長 泉中 河合 広映 先生)

令和7年度 研究部各部会

日時：令和8年2月18日（水）16:00～16:30

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長 (片山 博寿、山崎 雅、上條 亘、加藤 祐輝)

- 1 令和7年度の活動の振り返り
- 2 HPにアップする成果物の確認
- 3 令和8年度の研究構想及び令和9年度西濃大会について
- 4 令和8年度の研究部員継続のお願い
(終了後、部会ごとに解散)

岐阜県中国研 令和7年度の活動の振り返り

垂井町立不破中学校 小宅陽久

主体的に学び合う持続可能な研究体制と
今後の県大会の在り方

私たち県中国研は、昨年度行われた美濃大会の成果と課題を踏まえ、令和7年度の活動をスタートさせました。地区の実態や働き方改革の推進についても考慮し、今後も岐阜県の国語科の先生方が学び合える持続可能な県大会になるようにしていきたいと考え、各郡市にある国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けるといった大会開催の目的や意図を明確にして実施した美濃大会では、美濃地区の先生方や参加者の方々から前向きなご意見を多数いただくことができ、

多くの成果が得られた意義ある大会となりました。次の県大会は、令和9年度に西濃大会を予定していますが、運営と研究の両面で、もう一度足場を固めながら着実に県中国研として歩んでいきたいと考えました。運営面では、「持続可能な研究体制の構築と県大会の運営方法の模索」研究面では「研究部レベルアップ（領域ごとの部研を実施し、授業参観、授業研究会を通して指導録の向上を図ること）」を具体的に打ち出し、実行してきました。令和7年度の活動内容は、上部に示した通りです（図1）。

現在私たち教師を取り巻く今日的な課題は様々で、多岐にわたっています。「全国学力・学習状況調査の結果と分析」「指導と評価の一体化」「新しい教科書の活用」「働き方改革」「ICTの利活用」「生成AI」「次期学習指導要領」等、様々なキーワードが挙げられています。この中でも特に、「次期学習指導要領」に関わっては、文部科学省 中央教育審議会 教育課程企画特別部会から論点整理（素案）が示されています。この素案を読むと、すでに現在の学校現場に直結する重要な方向性がいくつも示されています。次期学習指導要領の基本的な方向性として、提示されていることが次の3点です。①深い学び（Excellence）…主体的・対話的で深い学びを、より明確に授業に落とし込む ②多様性の包摂（Equity）…不登校や特異な才能を含め、一人一人の可能性を開花させる ③実現可能性（Feasibility）

日時	内容	方法・場所
5/14	第1回 役員会（写真1）	オンライン
6/4	第1回 代議員会・研究部総会合同会議及び研究部各部会 ・令和7年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・ご指導 岐阜県教育委員会 義務教育課 課長補佐 橋本 奈美 様	オンライン
7/22	第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	対面・本荘中
8/20	県中国研夏季ゼミナール 光村図書教科書編集担当者による講話 「教科書編集に込めた意図と願い」	対面・大垣市スイトピアセンター
10/9 10/10	全日本中学校国語教育研究大会北海道大会 【参加者】河合会長 小宅主務 山崎書くこと部長 上條読むこと部長	ホテルライフォート札幌 北辰中（札幌市）
1/21	第2回 役員会	オンライン
2/18	第2回 代議員会・研究部総会合同会議及び研究部各部会 ・令和7年度の振り返り ・令和8年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導 岐阜教育事務所 教育支援課 指導主事 一川 宗弘 様	オンライン

〔図1〕 令和7年度県中国研活動内容

…教師の負担を増やさず、持続可能な教育課程を設計する この三本柱は、それぞれ独立しているのではなく、「多様な子供たちの深い学びを確かなものにする」という一つの目標に収束するものとされています。これから数年をかけて、さらに生徒たちへの指導・支援の在り方や、教員という仕事の在り方がまた少しずつ変わっていくのではないかと考えます。しかし、そのような変化の中でも、私たちは、国語の教師として目の前の生徒に確かな学力を付けていく立場にあります。私たちは、この県中国研という団体を、岐阜県の先生方がつくる大きな国語科の教科部会と捉え、「岐阜県内の国語教員の主体的な学び合いの場」「若手教員の研修の場」となることを願い、今年度も活動をしてきました。

国語について考えを深めた夏季ゼミナール

8月20日（水）に実施した夏季ゼミナールでは、「教科書編集に込めた意図と願い」と題し、光村図書出版 中学校国語課 編集長 西村 智子 様を講師としてお招きし、ご講話をいただきました。当日は、対面、オンライン合わせて、247名もの参加者がありました。また、県中国研からは、今年度の研究の具体や岐阜県の全国学力・学習調査の分析、今後予定されている各領域の部研についても提案することができました（写真1）。私たちの提案については、西濃教育事務所 教育支援課 課長補佐 江口 知衣子 様よりご指導をいただきました。次に示すのは、当日参加者の感想の一部です。短い時間でしたが、岐阜県内の国語教員が一堂に会し、国語の指導についてじっくり考える有意義な時間となったことを大変嬉しく思います。

<夏季ゼミナールの感想>

- 勤務校で国語について話す機会はテスト検討くらいになってしまっています。人も時間もない中で、たまに国語の話ができると自分が国語教員になりたかった理由を思い出すことができます。自分自身が教材研究を十分にできていないことに、とても不安を感じます。常に不安はありますが、生徒と共に新たな気づきがたくさんあります。教員も生徒も楽しめる授業をしていくために学び続け、日々アップデートしていきます。
- 私事ですが、7月に全校研究会を行いました。校内の研究方針に沿って、改めて「俳句の可能性」という教材に向き合いました。その時は、大変悩みましたが、本日伺った県中国研のような研究の場があることを知り、もっと早く知りたかったですし、とても興味をもちました。岐阜県内には多くの同僚がいることを支えに、夏休み明けも頑張りたいと思います。
- 中学校1年目の国語教員です。現在、国語について学べる機会が少なく、学級経営と併せて必死になっている状態です。そんな中で実際に授業を参観したり、指導案を見たりして国語の授業について学べるのは大変ありがたいと感じています。「本質」と「汎用性」の両立を自分でも考えていきたいと思いました。県中国研は若手教員の希望の光になると思います。
- 私は今まで4校に勤務してまいりました。その中で教科の先輩がおらず、経験の乏しい自分が校内で一番上という状況になってしまったことが半分です。自分の授業の方針はこれでよいのか、どのように改善したらよいのだろうかと思う中で、自分が助けられているのが「ぎふこくご」であり、諸先輩方の研究実践や提案です。いつもありがとうございます。
- 全国学力・学習状況調査では、生徒が「やっている」「できている」と実感している一方で、結果を見ると身に付いていないなと感じることはよくあり、どうアプローチするべきか悩んでいました。提案のキーワードである「本質」を目指して指導改善していくことの必要性を改めて感じましたので、今の授業や方法に満足せずに日々の実践に向かっていきたいです。県中国研のホームページ等も是非活用させていただきたいです。

- 「いつでも使える国語の力を育てる」ことを研究主題に掲げていることがとてもよいと感じています。よき表現者となるには、単に知識を習得するだけではなく、そのよさを理解して使えるようになることが大切です。いつでも使えるようになるために、授業者が「本質」と「汎用性」を意識して、いかに授業をコーディネートできるかについて、研究実践を重ねながら授業力を高めていきたいと思います。そのためにも、県中国研からの発信などにも敏感になって、授業改善の視野を広げ、深めていきたいと思います。
- 「本質」と「汎用性」、そして「自分の勘と経験だけで授業をしてはいけない」という言葉が心に残った。自分もここ数年で「なんとなく」授業ができてしまっていると感じることがある（できているかはわからないが）。そこに明確な根拠をもって臨めるかどうかは、子どもに確かな力を付けることにつながる。しかし、時間が限られているため「汎用性」というところは大切にしないといけない。バランスを考えながら、日々の実践を積み重ねていきたい。
- 昨年度までは小国研に所属しており、本日の提案で中国研の歩みを知ることができました。自校は教科部員が5人もいるので大変ありがたいですが、教科部員が一人の学校も多いという話を聞き、県中国研が「最強の教科部会」だと話していただけたのは大変心強いことだと思います。本校では探究領域と表現領域を融合して、生徒がより強い目的意識をもって学びに向かえるように実践しております。



〔写真1〕 夏季ゼミナールの様子

西濃大会に向け、領域部研で研究部レベルアップ

今年度は「『本質と汎用性の両立』をテーマに各領域が部研を行い、研究への理解を深める」という具体的な方途を定めました。そして、7月～11月末にかけて、4人の領域部長が授業を公開し、研究会を通して、よりよい指導法について学び合う場を設定しました。これは、令和9年度の西濃大会も見据えた上で、研究部の教科指導力をさらにレベルアップしたいと考えたからです。授業公開は次の通り実施されました（図2）。

7/7（月） 話すこと・聞くこと部会 合意形成に向けて話し合おう 大垣市立上石津学園 片山 博寿 教諭	10/22（水） 読むこと部会 ヒューマノイド 高山市立日枝中学校 上條 亘 教諭 ※岐阜県リーディング・ スクール訪問	11/4（水） 書くこと部会 批評文を書こう 瑞浪市立瑞浪北中学校 山崎 雅 教諭	11/26（火） 言語文化部会 徒然草 可見市立蘇南中学校 加藤 祐輝 教諭 ※可見市教研
---	--	---	--

〔図2〕 領域部研の歩み

それぞれの領域部研では、岐阜県教育委員会のリーディング・スクール訪問や市教研に重ねて実施された部会もありましたが、県中国研の本部役員、研究部員、さらには自ら希望されて参加された方々等、多くの先生方で授業研究を行うことができました（写真2）。それぞれの授業研究会で検討されたことや、研究実践の成果と課題については研究総括、領域部長から具体的に発信していきます。次年度は、令和7年度の西濃大会に向け、領域ごとに指導案検討会を実施したり、当日に向け準備委員会を積極的に開催していく予定です。西濃地区が中心となっていきますが、多くの先生方に県中国研の活動にご理解、ご協力いただき、オール岐阜の精神で県大会に向かっていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

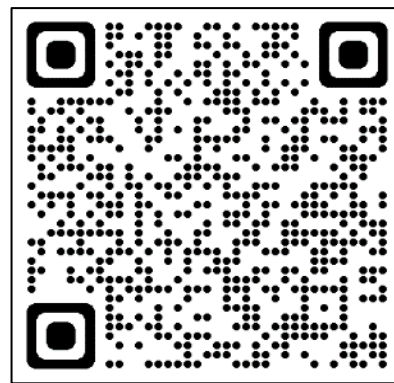


〔写真2〕 領域部研の様子

実践を広め、深める県中国研ホームページの紹介



県中国研の活動にご理解、ご賛同をいただけるように、県中国研ではホームページを整備し、運用しています。県中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の四部会があります。これらの部会が中心となり作成して頂いた、授業実践の指導案等を「中国研ホームページ」（<https://gifukokugo.com>）にアーカイブしており、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。現在、ホームページには令和7年度に実施した領域部研の指導案や単元構想図をはじめ、「美濃大会」の指導案、部会ごとに作成した単元構想表、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています。岐阜県規模の教科部会の資料共有のツールとして、ホームページを充実させ、生徒が満足感や達成感を得られるような汎用的な授業資料を作成、掲載していくことは、「国語が好きだ」「国語の授業はよく分かる」という岐阜県の生徒を育てることにつながっていくと思います。お困りの際や、授業改善、御指導で活用する際の参考にして頂けましたら幸いです（図3）。



〔図3〕 県中国研QRコード

令和8年度 中国研活動計画（案）

日時	活動内容	留意点
5月13日（水）	第1回 役員会	※対面 or オンライン
6月 3日（水）	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各代会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和8年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・ご指導（ ） 【研究部各代会の内容】 ・自己紹介 ・令和8年度の研究構想の共有 ・研究部の活動の確認	※対面 or オンライン ※ハイブリットも検討 (対面 and オンライン)
7月 日（ ）	第43回 NHK杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会 【実施も含めて未定】※情報部長より提案	※会長、主務者、情報部長が出席
8月19日（水） 【未定】	県中国研夏季ゼミナール 西濃大会準備会【予定】	※対面
1月20日（水）	第2回 役員会 ・令和8年度の振り返り ・令和9年度の活動の方向の確認 ・ぎふこくご賞実践論文の審査	※対面 or オンライン
2月17日（水）	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各代会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和8年度の振り返り ・令和9年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導（ ） 【研究部各代会の内容】 ・令和8年度の振り返りと令和9年度の方向	※対面 or オンライン ※ハイブリットも検討 (対面 and オンライン)

■ 今後の県大会サイクルの確認

R3	→	R6	→	R9	→	R12	→	R15	→	R18
飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃	間2年	東濃	間2年	可茂	間2年	岐阜

※上記のサイクルで県大会を実施していきます。ここ数年間、各地区、各都市の国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けています。具体的には、各地区の秋の市教研を公開授業（対面）とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施するという美濃大会の開催方法を土台としながら、令和9年度に開催される西濃大会に向けて議論を重ねていきたいと考えています。

令和7年11月吉日

各都道府県教育委員会教育長 様
各市区町村教育委員会教育長 様
各都道府県国語教育研究会長 様
各 学 校 長 様
各 関 係 者 様

全日本中学校国語教育研究協議会
会長 中 嶋 富 美 代
東京都中学校国語教育研究会
会長 宮 城 洋 之

第55回 全日本中学校国語教育研究協議会 東京大会

第69回 全関東地区中学校国語教育研究協議会 東京大会

(第1次案内)

未来の担い手を育む国語科教育

～生きて働く言葉の力を高める授業の創造～

- 主催 全日本中学校国語教育研究協議会 東京都中学校国語教育研究会
- 後援 文部科学省 東京都教育委員会 新宿区教育委員会
東京都中学校長会 新宿区中学校長会(全て申請予定)
- 期日 令和8年11月12日(木)、11月13日(金)
- 会場 1日目 新宿区立新宿文化センター(新宿区新宿 6-14-1)
2日目 新宿区立新宿中学校(新宿区新宿 6-15-22)
- 文部科学省講話 鈴木 太郎氏 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程調査官・学力調査官
- 大会記念講演 齋藤 孝氏 明治大学文学部教授

7 大会日程

令和8年11月12日(木)		令和8年11月13日(金)	
12:30	受付	9:00	受付
13:00	開会式・主題解説	9:30	分科会Ⅰ公開授業
13:40	休憩	10:30	分科会Ⅰ研究協議
13:50	文部科学省講話	11:40	昼食休憩
15:10	休憩	13:10	分科会Ⅱ研究発表
15:20	記念講演	15:40	休憩・移動
16:20	閉会	15:50	閉会式
16:50	全中国理事会		
17:30	情報交換会・レセプション		

8 分科会Ⅰ（公開授業 9:30～10:20・研究協議 10:30～11:40）

	領域	会場
第1分科会	知識及び技能（情報）	詳細は2次案内に掲載します。
第2分科会	知識及び技能（古典）	
第3分科会	思考・判断・表現（話すこと聞くこと）	
第4分科会	思考・判断・表現（書くこと）	
第5分科会	思考・判断・表現（読むこと説明的文章）	
第6分科会	思考・判断・表現（読むこと文学的文章）	

9 分科会Ⅱ（発表 20 分 協議 30 分 指導・講評 20 分 休憩 10 分）

	領域	発表①	発表②	会場
第1分科会	知識及び技能（古典以外）	茨城県	北海道	詳細は2次案内に掲載します。
第2分科会	知識及び技能（古典）	千葉県	宮城県	
第3分科会	思考・判断・表現（話すこと聞くこと）	栃木県	岐阜県	
第4分科会	思考・判断・表現（書くこと）	群馬県	滋賀県	
第5分科会	思考・判断・表現（読むこと説明的文章）	埼玉県	香川県	
第6分科会	思考・判断・表現（読むこと文学的文章）	神奈川県	山口県	

10 大会参加費（予定） 一般 6,000 円 大学生 3,000 円

11 申し込み方法

申し込みのご案内は第2次案内（4月発出予定）および全中国 HP・都中国 HP に掲載します。

大会参加等の申し込みについては、専用ウェブサイトからの手続きを予定しています。

★2 日目の昼食、宿泊場所のあっせんは行いません。

12 問い合わせ

大会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿 6-22-15 新宿区立新宿中学校

TEL 03-3357-6191

新宿区立新宿中学校 校長 松澤 亮

Email:ryo.matsuzawa@city.shinjuku.lg.jp

13 PR 動画

東京大会の PR 動画を作成しました。以下の URL か、二次元コードを使用して、ご覧ください。

<https://youtu.be/GK1xdtJj65w>



令和7年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は60%となっており、全国の平均正答率（58.1%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、60.5%（全国平均64.3%）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、82.8%（昨年度80.1%）である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

(1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想（汎用的）

- ・「生きてはたらく言語能力（指導事項）」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、実践の再現性を高めるための「汎用性」の高い指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
 - ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
 - ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
 - ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

研究内容② 指導・援助の工夫

(1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

(2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫（指導と評価の一体化）

- ・生徒がなりたいたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

令和8年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図（案）

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和7年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は**54%**となっており、全国の平均正答率（**54.3%**）と**ほぼ同様の結果となった**。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は**身に付きつつあるといえる**。
- ・全体としては、全国平均に**沿う結果となっているが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在するなど、基礎的、基本的な力が定着しているとは言えない**。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、**55.1%**（全国平均**57.9%**）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、**77.6%**（昨年度**82.8%**）である。このことから、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合は**依然として低く、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる**。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・**こうすれば「分かる・できる」「前よりよくなる」という見通し**をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ① **単元の指導内容**を学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ② 「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」と願うような、魅力的で必然性のある**言語活動の開発**を行い、
- ③ **こうすれば「わかる・できる」「前よりよくなる」という見通し**をもち、自らの学びを調整しながら、主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程を**工夫した単元構想**を通して、
- ④ 「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）や、「**自分の考え（学び）を仲間と共に広め深める手立て（協働的な学習）を位置付けること**で、
- ⑤ 単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる評価の場を位置付け、**教師と生徒が学びの状況を共有し、次への学びに向かう力を高めることができれば、**
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、日常生活や社会生活に繋がる力を育む言語活動の工夫や単元の構想

- ・「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」といった生徒の意欲を喚起することができる**言語活動の工夫**。
- ・実践の再現性（汎用性）を高め、指導と評価の一体化を意識した指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想。

研究内容② 指導・援助の工夫

(1) **「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学びの充実）**

- ・**こうすれば「できる・わかる」「前よりよくなる」と見通し**をもち、主体的な学びに繋げる導入の工夫
- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒と個人目標を共有し、その達成に向けた**効果的な自己調整を促す**援助の工夫。

(2) **生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫（協働的な学びの充実）**

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感し、次の学びに繋げる指導・評価の工夫（指導と評価の一体化）

- ・生徒が「なりたい姿」や「つけたい力」を明確にし、**目標達成への見通し**を具体的にもち、**学習計画を立てるための目標設定の工夫**。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感するとともに、**次の学びへと繋げる**ことができる振り返りの工夫。

今年度の振り返りと令和8年度の方角性

岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

「両立」から「追究」へ

1. はじめに

新しい学習指導要領のための論点整理が出されました。まだ読み込む途中ですが、時代の移り変わりを反映してか、様々な変化がありそうです。これまで僕らが取り組んできたことを踏まえつつも、考え方や指導方法をアップデートしていかななくてはならないと考えています。

数年前のコロナ感染症の折にも実感したのですが、変化を後退と捉えているうちは苦しさがあります。変化を好機と捉え、授業に対する自分の姿勢を見直していくことができれば、どんな変化にも対応していけるはずでず。中国研会長の河合校長先生が仰った『『経験』と『勘』だけで授業をしてはいけない』という言葉は、まさにこのことだと思います。美濃大会を終えて、西濃大会へ向かう一年目となった今年度を、「高める二年目」に繋げていきたいと思っています。

令和七年度の方角的な取組

今年度の中国研では、活動の柱として次の二点に取り組みました。

- ・「本質」と「汎用性」の「両立」を目指した授業実践
- ・「研究部レベルアップ」を図る「領域部研」の実施

①「本質」と「汎用性」の両立を目指した授業実践

一つ目の柱である「本質」と「汎用性」の「両立」を目指した授業実践については、昨年度行われた美濃大会において作られた四つの授業実践を「ぎふこくご」HP上に掲載し、広く県内外に共有することから始めました。各地で行われた市教研や校内の研究会、個人の実践のために活用していただけたことと思います。研究部としても、自分の勤務校や生徒の実態に応じてアップデートをした授業を行い、それを領域内で共有することで、実践に反映できるようにしていきましました。

「汎用性」の捉えとして、「誰でもできる」「どこでもできる」というだけではなく、「自分もやってみようと思える」授業であることを、先の総会において確認しました。地域や生徒、授業者の特性に応じて言語活動を工夫したり、展開を変更したりすることで、一つの実践から派生してたくさんの事例を生むことができます。そのために必要なのは、「核となる単元構想」です。その単元でどんな力をつけるか、どのような内容について指導するか、それをどのように評価するか。そういった「単元の基本フレーム」を作り込むこと。それが第一段階です。そこに目の前の生徒の実態を踏まえ、どのような言語活動を行うか、という「工夫」を行うこと。これが第二段階です。授業者や生徒の実態によってアプローチの方法は違ひます。しかし、発達段階に応じて指導しなければならない

内容は共通です。学習指導要領に示されているのはその部分です。これを適切に捉え、単元構想する力をつけること、そして個別最適な学びを実現するために、特色ある授業にアレンジすること。これが、僕らが身につけなければならない「本質」と「汎用性」の「両立」と言えるのではないかと考えました。

現在どの学校、どの教科においても、非常に深刻な人手不足という問題を抱えています。授業を工夫する以前に、まずは指導書通りに授業をすることに必死だ、という切実な声も聞かれました。学びたい、力を付けたいと願う先生が、迷いなく授業に取り組める「ベース」となる授業実践を、今後も作っていきたいと考えています。

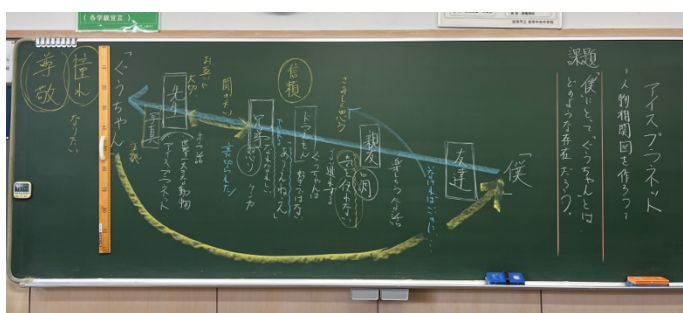
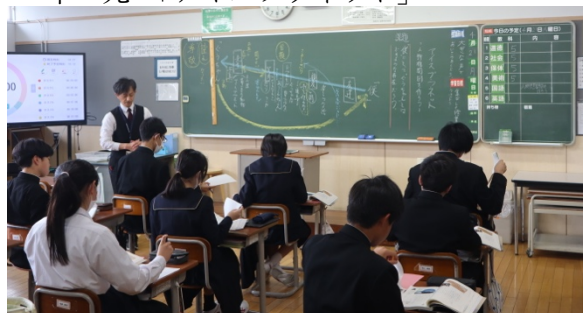
②「研究部レベルアップ」を図る「領域部研」の実施

前述の「本質」と「汎用性」の「両立」を目指した授業実践」を、具現するために行ったのが、二つ目の柱である「領域部研」です。四月に研究総括が行なった「C読むこと」の授業を皮切りに、四人の領域部長がそれぞれの研究主題に則った授業を行いました。

【領域部研①:研究全体構想図】

授業者：岐阜中央中学校 北原 章大（研究総括）

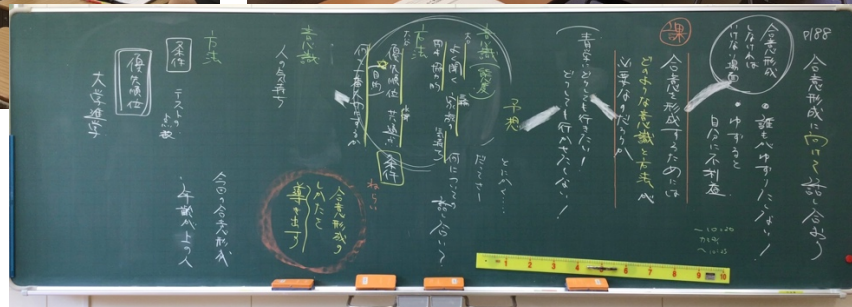
単 元：「アイスプラネット」



【領域部研②:A話すこと聞くこと】

授業者：上石津学園 片山 博寿（A話すこと聞くこと部長）

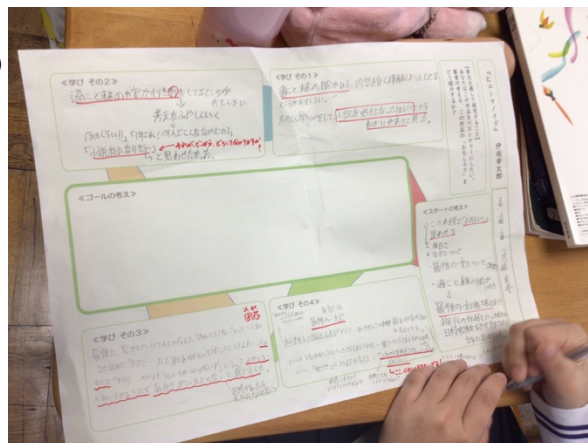
単 元：「合意形成に向けて話し合おう」



【領域部研③:C読むこと】

授業者：日枝中学校 上條 亘（C読むこと部長）

単 元：「ヒューマノイド」



【領域部研④:B書くこと】

授業者：瑞浪北中学校 山崎 雅（B書くこと部長）

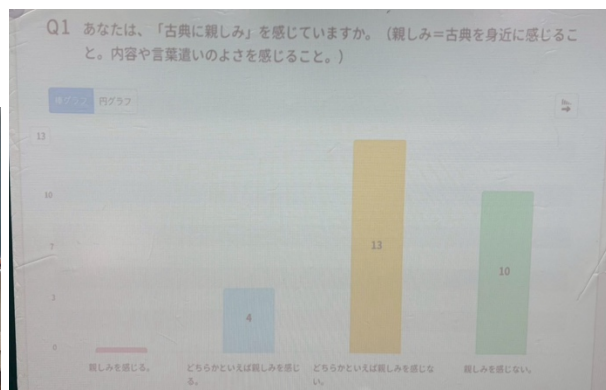
単 元：「多角的に分析して書こう」



【領域部研⑤:言語文化】

授業者：蘇南中学校 加藤 祐輝（言語文化部長）

単 元：「徒然草」



それらの授業を部員だけではなく他領域の部長や主務、会長先生に見ていただくことで、各領域の研究について知るとともに、全体研究構想図について共通理解を図ることができました。

また、市教研とのハイブリッド開催を行なった美濃大会を受けて、今年度の領域部研も各学校の全校研究会や指定校公開授業、市教研などを活用し、過度な負担を強いることなく、より多くの人々に見ていただく工夫をしました。形式的な研究会ではなく、それぞれの実践や大切にしていること、逆に疑問や悩みなどを議論し合うことで、授業者にとっても、また参観者にとっても、「国語について本気出して考えてみる機会」となりました。まさに「観」を鍛える場であったと感じています。来年度は授業者を部員が担当したり、広く周知を行ったりすることで、より学び合う環境を整えていきたいと思っています。

来年度へ向けて

一部の「すごい先生」「すごい生徒」「すごい学校」だからできる授業ではなく、「いつでも」「どこでも」「誰でも」できる授業を目指そうと考えて「汎用性」の研究を始めました。その中で「汎用性が高い＝簡単」ではないよね、と考えたことから、「本質」を考え直す研究に繋がりました。それらの「両立」を目指す中で、どちらも共に高めることで、中国研の目指す「生きて働く言語能力の育成」という研究主題に間違いなく繋がっていくという確信を得ました。そのような今年度の研究部の取組を受けて、来年度の研究の方向性を次のように定めました。

「本質」と「汎用性」の追究

～「汎用性」を高める「ベース」となる単元構想の工夫～

美濃大会の成果を、より具体的に近づけ、新たな時代に求められる国語科指導に繋げるために、教科の本質について改めて考えていきたいと思います。

4. その他

(1)「令和8年度の研究部員継続のお願い」について

このように中国研としての活動を展開することができたのは、研究部員を始めとし、様々な形で中国研の活動に関わってくださった皆様のお力添えがあつてのことです。ぜひ来年度も継続して、共に研究を進めていきたいと考えております。つきましては、2月27日（金）までにアンケートフォーム（Forms）にご回答をいただきたいと思います。人事異動が関わることで、現時点でのご自身の希望で構いません。

【令和8年度 中国研 所属部会 希望調査（Forms）】

以下の URL か QR コードからアンケートに飛び、回答してください。

[令和8年度 中国研 所属部会 希望調査 - フォームに記入する](#)



また、国語について共に学ぶ新たな仲間を増やしていきたいと考えています。新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

岐阜市立岐阜中央中学校			
本件担当者		北原 章大（研究総括）	
〒500-8804 岐阜市京町三丁目 1 9 番地			
TEL	058-265-1621	FAX	058-265-1622
E-mail	gichu02@chuou-j.gifu-gif.ed.jp		

A 話すこと・聞くこと部会 令和7年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津学園 片山 博寿

令和7年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和7年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

(3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

A 話すこと・聞くこと部会 令和8年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津学園 片山 博寿

令和8年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和8年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

（１）指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

（２）指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

（３）評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

県中国研

【話すこと・聞くこと部会】

<結論>

- ① **3年間のゴールは、「合意形成」である。**そのため、系統的に指導をする。
- ② **指導事項**の習得を目的に、言語活動を仕組む。**評価**が明確になる。
- ③ 学んだことを、別の場面で活用して、レポート提出することは効果的である。

合意形成に向けた系統的指導

話すこと

聞くこと

話し合うこと

合意形成能力の育成は、「話し合うこと」における最終到達点である。

また、合意形成能力は、1年生時から、系統的に指導する必要がある。

学年	方法	到達点	学習活動
1年生	・話題や展開を捉えて話し合う。	・互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	・少人数で話し合う活動。
2年生	・互いの立場や考えを尊重して話し合う。	・一定の結論を導くために考えをまとめる。	・議論や討論する活動。
3年生	・進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりする。	・合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする。	・議論や討論する活動。

合意形成が発生する条件



誰もが絶対に譲りたくない。

= 譲ると、自分に不利益になる。だから、簡単に結論は出ない。



私は、どうしても青山学院大学に行きたい!!

私は、どうしても青山学院大学に行かせたくない!!



25. 7. 7(月)の授業について

ねらい

「合意形成のしかた」を意識と方法の面で導き出すことができる。

授業の流れ

- ① 模擬家族進路会議の設定を確認する。
- ② 模擬家族進路会議【失敗ver.】
- ③ ②の振り返り—どうするとうまくいくのか予想をする。[ロイロ]
- ④ 模擬家族進路会議【合意を形成するver.】
- ⑤ 結論+どのように合意形成をしたか。[ロイロ]
- ⑥ どのような「意識」と「方法」が必要か。[ロイロ]
- ⑦ 合意形成に向けて話し合うことのよさは？[ロイロ]
- ⑧ 合意形成レポートについて



合意形成に向けて話し合うことのよさ

- ・話し合う人の思いを知ることができる。
- ・話し合うことで、ちょっとすっきりしたから、少しは納得に近づける。

合意形成を「手段」として用いることも

「目的」として用いることも

両方大切!!

- ・決定をする。



日本における国や社会に対する意識

	自分で国や社会を変えられると思う。	自分の国に解決したい社会問題がある。	社会問題について、家族や友人など、周りの人と積極的に議論していると思う。
日本	18.3%	46.4%	27.2%
インド	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	47.6%	75.5%	75.3%
中国	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	45.9%	66.2%	73.1%

引用「18歳意識調査「国や社会に対する意識」日本財団(2019)」

- ・ 課題解決に向けて、人と議論し、立ち向かうハングリー精神に欠ける。
- ・ 日本人特有の同調意識



REPORT

下記の内容を、8月29日(木)までにレポートで提出をする。

- ① どんな内容で合意形成をする場面が生まれたのか。
- ② どんな結論になったのか。
- ③ どのように合意を形成したのか[過程をまとめる]

令和7年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和7年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，
考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

B**書くこと部会****令和8年度の研究方向**

書くこと部会部長 瑞浪市立瑞浪北中学校 山崎 雅

令和8年度 中国研 研究主題**生きてはたらく言語能力の育成**

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和8年度 「書くこと」部会 研究主題**相手，目的や意図，場面や状況に応じて，****考えが伝わる文章を書く能力の育成**

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場や協働的な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫**①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用**

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の開発をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫**①「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫**

- ・単元の見通しをもち、「書ける」と思えるような導入の工夫をする。
- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

②生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

(3) 評価の工夫**①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感し、次の学びにつなげる評価の在り方**

- ・生徒が目標達成への見通しを具体的にもち、どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化し、次の学びへと繋げる場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

書くこと部会

令和七年度 研究の振り返り

瑞浪市立瑞浪北中学校 山崎 雅

単元名 「瑞浪の未来について考えよう」
題材名 「考えを効果的に伝えよう」

―多角的に分析して批評文を書く―

一 実践のねらい

本実践は、社会生活に関わる事柄についての特性や価値を、多角的に分析した上で批評文を書いたものです。予測が困難な時代に生きる子どもたちに、題材について客観的に分析し、よしあしを見極め判断し、説得力のある言葉で表現する力を身に付けさせることをねらいとしました。本校の生徒は、説明的な文章を書くことに抵抗感を感じています。また全国学力・学習状況調査の結果からは「根拠」の理解に弱さがあると考えられます。意欲的に取り組める言語活動を設定し、自分の考えに合わせた根拠を取り上げることが、批評文に説得力をもたせることになると気付かせたいと考えました。そこから、本単元での「生きてはたらく言語能力」を「自分の考えが効果的に伝わるように、適切な根拠を選び、表現のしかたや論理の展開を工夫して書く力」としました。

二 実践の内容

今回は瑞浪市の第七次瑞浪市総合計画「基本構想『みずなみVISION』」を見ながら、地域の施策に対する批評文を書くという言語活動を設定しました。コミュニケーションスクールの一環として、できた批評文を学校運営協議会の方に読んでいただくこととし、目的と相手を明確にすることで「自分も地域の一人として、地域の未来について

考えたい」という思いに立つことができるようにしました。

単元の流れは、①単元の見通しをもつ②施策について学ぶ（題材の設定）③批評の観点を考える④構成を考える（構成の検討）⑤批評文を書く（記述、推敲）⑥交流する（共有）とし、全七時間で構想しました。

指導にあたっては、苦手を克服する手立てとして、事前に書くようにしていることを把握し、例文を複数用意することで、自分の選んだ施策に基づいて、書き方の近いものを選ぶようにしました。得意を伸ばす手立てとしては、本論において書き方の工夫を一つ選んで書くのではなく、それぞれの観点に応じて異なった書き方をするという視点を与えることで、より説得力のある批評文を書くことができるようにしました。

三 成果と課題

本実践の結果、自分の意見を支える根拠を適切に選び、批評文を書くことができました。地域について考える言語活動を仕組んだことで、自分ごととして意欲的に取り組むことができ、単元終了後の「説明的な文章を書くことで力がついた実感があるか」という質問に対しては、95%の生徒が肯定的に答えました。

一方、情報と情報との関係性や情報の信頼性の吟味などの指導が不十分でした。情報に関する知識・技能を、継続して行っていく予定です。

四 指導・助言

・表現を使う際に、その表現を使うとなぜ説得力が増すのかを考えさせるようにです。

・モデルを用いて教えることと、子どもに考えさせることを、単元構想の段階で考えるところとよいです。何を教えて何を考えさせるかを検討していきたいです。

・今回生徒が自分ごととして考えられる言語活動であったことはよかったが批評として適切なテーマを吟味していきたいです。

C 読むこと部会 令和7年度の研究の方向

読むこと部会部長 高山市立日枝中学校 上條 亘

【令和7年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和7年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

(1)指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ② 学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読む必要がある」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

(2)指導・援助の工夫

- ① 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（協働的な学びの意図や視点の明確化）
- ② 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③ 身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3)評価の工夫

- ① 単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ② 単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

C 読むこと部会 令和8年度の研究の方向（案）

読むこと部会部長 高山市立日枝中学校 上條 亘

【令和8年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎学習に魅力や必然性を感じ、目的をもって主体的に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和8年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

- ①「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、
②学びの必然性と、③こうすれば「わかる・できる」「前よりよくなれる」という見通しをもてる導入や学習過程等を工夫し、④互いの考えを伝え合い、自分の考えを再構築する活動を行ったり、⑤自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

（1）指導計画の工夫

- ①「読みたい」という生徒の意欲を喚起することができる言語活動の開発
 - ・「読みたい」「読む必要がある」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成
- ② 実践の再現性（汎用性）を高め、指導と評価の一体化を意識した指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積

（2）指導・援助の工夫

- ① こうすれば「できる・わかる」「前よりもよくなる」と見通しをもち、主体的な学びに繋げる導入の工夫
 - ・学ぶ必然と学びの見通しを生み出す導入の工夫
- ② I C Tを効果的に活用した追求や交流など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との協働的な学習方法の工夫（視点の明確化や教師のコーディネート等）
 - ・「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」を踏まえた授業の創造
- ③ 確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

（3）評価の工夫

- ① 単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした単元導入の工夫
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ② 単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・単位時間の学びを振り返り、個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

R7 岐阜県中国研「読むこと」部会 まとめ

高山市立日枝中学校 教諭 上條 亘

OR7 の研究内容

※『読むこと部会 令和7年度の研究の方向』を参照

OR7 の実践に向けて

①再現性（汎用性）のある教材開発

生徒にとって学ぶ魅力や必然性があり，教師にも指導の見通しがもてる単元構想

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

「読むこと」領域における学習形態や学びの意図・視点の明確化

③身に付けた力の「見える化」と学習の調整を行う場の設定

単元での学びを生徒が自覚できるようにするための指導の工夫

OR7 実践について

実践＝単元：人間のきずな『ヒューマノイド』（高山市立日枝中学校 上條 亘 11月実践）

【内容】

- ①生徒にとって学ぶ魅力や必然性があり，どの教師にも自己の指導の見通しがもてる単元構想
＝生徒に学びの原動力となる「問」をもたせる単元導入とその解決に向かえる単元構想
- ②「読むこと」の学習における学習形態や学びの意図や視点の明確化
＝考えの形成に向かう単元構想の充実と対話活動のモデル提示
- ③身に付けた力の「見える化」と学習の調整を行う場の設定
＝単元の学びや自分の学習状況が見通せるワークシートの活用

【成果】

- ①単元全体を見通した課題設定を行うことで，単位時間に何をつかませるべきかが明らかになった。
- ②全体でモデルを提示し，対話の視点を明確にすることで，協働的な学びが充実した。
- ③生徒の学びを見える化することで，生徒自身が学んだことを生かして考えを形成することができ，教師は生徒の学習状況をより正確に見取ることができ，個々に応じた指導改善に生かした。

【課題】

- ①全員が共通する認識を解き明かしていく＝「結論が出る」授業（単元）を目指す。
単元課題が全生徒の共通認識になる問（文言）にする必要がある。
- ②自分の見方・考え方が根拠になるようにする。
生徒同士が互いの根拠に目を向け，吟味していき，再構築していく対話的な学習を充実させる。
- ③自己評価・自己調整の充実
学びのゴールを見据え，生徒自身が現状を把握し，次を検討できるようにする手立てが必要である。

言語文化部会 令和7年度の研究方向

言語文化部会 部長：可児市立蘇南中学校

加藤 祐輝

1 今年度の研究方向

令和7年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ◎国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

令和7年度 「言語文化」部会 研究主題

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

研究仮説

- ・古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

研究内容

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

(1) 指導計画の工夫

- ①多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- ②語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

(2) 指導援助の工夫

- ①古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- ②「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

(3) 評価の工夫

- ①生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

言語文化部会 令和8年度の研究方向（案）

言語文化部会 部長：可児市立蘇南中学校 加藤 祐輝

1 今年度の研究方向

令和7年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを捉え、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質を理解し、目的や場面に応じて適切に用いる生徒
- ◎国語で身に付けた知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

令和7年度 「言語文化」部会 研究主題

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

※「言葉への自覚」とは辞書的な意味を基に根拠を明確にし、文脈や目的に即して言葉を理解・選択・活用しようとする意識である。

研究仮説 ↓微調整あり

- ・小学校での学習との系統性を踏まえて古典教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりを意識した言語活動を設定すれば、古典に親しみ、主体的に学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話したり書いたりする中で言葉を適切に選択して使う言語活動を系統的に設定すれば、言葉の価値を実感し、「言葉への自覚」を高めることができる。

研究内容 ↓微調整あり

（１）指導計画の工夫

- ① 古典に親しむための指導計画
 - ・ 多様な古典作品に触れ、古典の言葉や表現、世界観に親しむ。
 - ・ 「古典に親しむ」ための言語活動を明確に位置付けた指導計画を作成する。
- ② 語彙を獲得するための指導計画
 - ・ 意味理解にとどまらず、自分の表現として獲得させたい語彙を明確にする。
 - ・ 単位時間ごとに「気付かせたい言葉」や「使わせたい言葉」を位置付ける。

（２）指導援助の工夫

- ① 古典を学ぶ意義の自覚を促す指導
 - ・ 作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方・考え方・感じ方を捉えさせる。
 - ・ 古典の言葉と自分の生活や生き方を結び付ける援助を行う。
- ② 思考力・判断力・表現力と関連付けた指導
 - ・ 語彙の知識を思考・判断・表現の場面と関連付けて活用させる。
 - ・ 「話す・聞く・書く・読む」のすべての領域で言葉を使う経験を重ねる。

（３）評価の工夫

- ① 「言葉への自覚」の高まりを実感できる評価
 - ・ 形式的な理解にとどまらず、根拠を基に言葉を選択・使用できた経験を価値付ける。
 - ・ 生徒自身が、言葉の選び方や使い方の変化を振り返る評価の場を設定する。

言語文化部会

令和七年度の研究の振り返り

可児市立蘇南中学校 教諭 加藤祐輝

一 実践のねらい

本実践は、「古典を「過去の知識」として学ぶのではなく、生徒自身の生き方を考える手掛かりとして捉えさせることをねらいとしました。全国学力・学習状況調査や PISA2022 において、根拠を基に考えを説明する力や、複数の情報を関連付けて考える言語能力に課題が指摘されています。このような現状を踏まえ、言語能力育成の核を担う国語科において、古典の学習でも思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方を探ることが重要であると考えました。

特に、事前調査により、多くの生徒が古典に親しみを感じておらず、筆者のものの見方・考え方を捉えることに難しさを感じている実態が明らかになりました。そこで本実践では、「徒然草」に表れた兼好法師のものの見方・考え方を手掛かりに、生徒が古典を自分事として捉え、自己の生き方を見つめ直す学習を構想しました。

二 実践の内容

本実践では、「徒然草」を教材とし、序段や「仁和寺にある法師」の学習に加え、生徒自身が自分の生き方に生かしたい章段を選択する言語活動を設定しました。単元の中には、「兼好法師のものの見方・考え方から、生き方のヒントカードを作る」という言語活動を位置付けました。

指導にあたっては、歴史的仮名遣いなどの基礎的知識の復習を行うとともに、現代文学で学んだ「伏線」や「論理の展開」、「問いを立てて読む」といった読みの視点を古典読解にも適用しました。これにより、生徒が古典を特別なものとして捉えるのではなく、現代文と同様に言葉や構成に着目して読み取れるよう工夫しました。

また、「文章との対話」と「仲間との対話」を意図的に設定し、兼好法師の考え方を言葉や表現を根拠に捉え、自分の価値観と比較・検討する学習を行いました。

三 成果と課題

本実践の結果、全生徒が選択した章段から兼好法師のものの見方・考え方を読み取り、自己の生き方と結び付けた成果物を作成することができました。単元後の意識調査では、古典に親しみを感ずる生徒が100%となり、古典を自分事として捉える姿が見られました。生徒の記述からは、「古典にも現代につながる考えがある」「生活に生かしたい」といった内省的な学びが確認でき、主体的・対話的で深い学びの実現につながったと考えます。

一方で、つまずきに対する支援は一定の成果を上げたものの、理解が深まった生徒の「得意をさらに伸ばす手立て」については課題が残りました。また、人生観に焦点を当てたため、歴史的背景を踏まえた理解を十分に深めるには至りませんでした。今後は、他章段との比較や社会科との教科横断的な学習を取り入れ、古典を文化的・歴史的視点からも深く理解できる指導へと発展させていきたいと考えます。



【教材および成果物】

四 指導・助言

身に付けさせたい力を明確にしたうえで、生徒の実態を丁寧に把握し、自校の実情に即した計画を立てて実践することが重要です。このような実践の積み重ねが、学習指導要領に示された国語科の目標達成につながると考えます。

生徒が必ずしも国語を好きである必要はありません。学習活動の中に「自分事として考えられる必然性」や「意味のある言語活動」を位置付けることで、国語に苦手意識をもつ生徒であっても、主体的に学びに向かう姿を生み出すことは可能です。

指導者自身が、単元の終末で求める表現を実際に書いてみることは有効です。これにより、時間配分の見通しがもてるだけでなく、生徒がどこでつまずきやすいかを把握することができます。また、どのような思考や表現に導きたいのかといった指導の意図も、より明確になります。学びの「広がり」と「深まり」は異なるものであるため、どの学習活動で何を意図するのかを、授業者が明確にもっておく必要があります。特に、文章中の小さな言葉の違いや表現の変化に着目し、指導者自身が気付いたり、生徒に気付かせたりすることが、思考の深まりにつながると思います。

令和7年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

＜趣 旨＞ 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

＜観 点＞ ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

＜主 催＞ 岐阜県中学校国語科研究部会

＜募集領域＞ 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

＜募集部門＞ ○論文部門 ○ダイジェスト部門

＜応募資格＞ 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

＜形 式＞ ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
・論文部門のページ数は自由。
ダイジェスト部門は指導案や資料＋A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

＜応募先＞ 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7

川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一

アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したのと同じものでも結構です。

※昨年度より上位入賞者には副賞（図書カード）を出しております。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

＜応募締切＞ 令和8年1月8日（木）17：00必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



令和8年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

＜趣 旨＞ 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

＜観 点＞

- ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
- ・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

＜主 催＞ 岐阜県中学校国語科研究部会

＜募集領域＞ 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

＜募集部門＞ ○論文部門 ○ダイジェスト部門

＜応募資格＞ 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

＜形 式＞

- ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
- ・論文部門のページ数は自由。
- ・ダイジェスト部門は指導案や資料＋A4一枚の実践のまとめとする。

＜応募先＞ 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7

川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一

アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したものと同一ものでも結構です。

※昨年度より上位入賞者には副賞（図書カード）を出しております。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

＜応募締切＞ 令和9年1月8日（金）17：00必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



【資料①】

令和7年度 代議員の皆様へ

令和7年度県中国研 総務部長
郡上市立八幡中学校 上村 光一

令和8年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度のスタートを迎え、ご多用であると存じます。代議員の先生方には、県中国研の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和8年度の代議員の確認、及び引き継ぎについてご連絡いたします。代議員が決定しましたら、以下の進め方で報告をお願いしたいと思います。

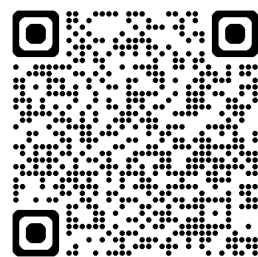
※新しい代議員の報告がない場合は、お手数ですが、前年度の代議員に派遣依頼および資料等を送付させていただきますので、転送等の措置をとっていただけますと幸いです。

【「アンケートフォーム」を用いた代議員の確認】

(手順)

- ①Google フォームにリンクしている、右の QR コードをスマートフォン・タブレット等で読み込む。

(PC リンク先)<https://forms.gle/UysEiaxLKDPss8G6A>



- ②アンケートフォームにご回答いただく。

* フォームにはメールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご入力ください。

※不具合等で送信ができない場合は、次ページの引継ぎ用資料(FAX 送信票)をご使用ください。

- ③R8年度の代議員さんに下記のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。(書式は問いません)

*なお、メールでの送付ができないご事情があれば、Fax でも対応いたしますので、その際は Fax 番号を送付していただけると幸いです。

[送付先メールアドレス] ko.uemura@gujo.ed.jp

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立八幡中学校 上村 光一(うえむら こういち)

Tel 0575-67-1010 fax 0575-67-1011

お手数ですが、よろしくお願いいたします。

FAX 送信票

代議員引継ぎ資料

郡上市立 八幡中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-67-1011

令和8年度 中学校国語科研究部会代議員

報告用紙

令和8年度（【地区名】） 代議員

中学校

連絡用メールアドレス

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

中学校

代議員引継ぎおよび追跡について

令和7年度県中国研総務部長

郡上市立八幡中学校

上村 光一

今年度は、4月時点での引き継ぎを前年度代議員の先生方にも協力していただくことで、以前に比べると回答率や年度当初の報告率が上がってきました。

よって今年度も同様の手順を踏んで、引継ぎや連絡を確実に行えるようにしていきたいです。また、代議員名簿完成を学事録での最終確認を終えてからという方向で考えています。

【引継ぎの流れ】

①代議員会資料に引継ぎのための手順(資料①)を掲載し、総務部長より代議員会にて説明。

→代議員の先生方におかれましては、次の代議員が決定するまでは、引き続き代議員として連絡・調整を行っていただくよう、よろしくお願いいたします。

→異動等があった場合でも、引継ぎ事項が確認できるように、ホームページ (<https://gifukokugo.com>) をご活用ください。

※異動となった場合、連絡が取れるよう、下記メールアドレス宛に異動先および連絡先を総務部長までご教示いただけると幸いです。

②アンケートフォームの回答で、代議員が年度内にまだ確定しない郡市については、総務部長より、4月の年度初め期間に、R7年度代議員の所属校・連絡先に再度、QRコードまたはFAX用紙を送付いたします。

(5月末までにはR8年度代議員の報告をしていただけると幸いです。)

★この手順で代議員を確認し、令和8年度の「岐阜県学事関係職員録」にて、校長先生方の最終確認をし、代議員名簿完成とします。

【代議員引継ぎに関する質問・連絡先】

県中国研 総務部長

郡上市立八幡中学校 国語科 上村 光一(うえむら こういち)

TEL:0575-67-1010 FAX:0575-67-1011

Mail:ko.uemura@gujo.ed.jp

(令和7年度)

収 支 決 算 書

部 支	会 部	名	岐阜県中学校国語研究部会	部 支	会 部	No.	10
部 支	会 部	長 名	河合 広映			職印	印

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	266,600	265,980	265,980
補 助 金			0
雑 収 入	845	135	135
繰 越 金	555	555	555
計	268,000	266,670	266,670

(支出)

事 業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当初予算	更正予算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	賃 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費		382		0	382
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費	1,500	0	0	1,500	0
	使用料及賃借料	30,000	235,180	235,180	△ 205,180	0
	分 担 金				0	0
	助 成 金				0	0
	積 立 金				0	0
	小 計	31,500	235,562	235,180	△ 203,680	382
図 書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費	193,500	31,108	31,108	162,392	0
	通 信 運 搬 費	43,000	0	0	43,000	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	236,500	31,108	31,108	205,392	0
総 計		268,000	266,670	266,288	1,712	382

(令和8年度)

予 算 書

部 会 名	岐阜県中学校国語研究部会	部会 支部 No.	10
部会長 支部長 名	河合 広映	職印	印

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	265,980 円	620円×429人
雑 収 入	638	
繰 越 金	382	
合 計	267,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	小 計	0 円
研究調査事業	賃 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 × 回 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	235,000 円 × 日 = 0
	分 担 金	
図書	助 成 金	
	積 立 金	
	小 計	235,000
図書	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
研究成果刊行事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	32,000 円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
研究成果刊行事業	小 計	32,000
	合 計	267,000 円

「ぎふこくご」No.76 もくじ ※白紙1枚入れてください

- 01 授業づくりと学びづくり……会長 土岐市立泉中学校 河合 広映
- 02 国語科の学習指導と学習評価の工夫改善 ―「指導と評価の一体化」の視点から考える―……岐阜県教育委員会 義務教育課 橋本 奈美
- 03 主体的に学び、指導力向上を図る県中国研の活動～持続可能な研究体制と今後の県大会の在り方……主務者 垂井町立不破中学校 小宅 陽久
- 04 「生きてはたらく言語能力の育成」のために ～「両立」から「追究」へ～……研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大
- 05 全体研究構想図
- 06 指導案「アイスプラネット～人物関連図を作ろう～」……岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大
- 07 話すこと聞くこと部会 令和7年度の研究……大垣市立上石津学園 片山 博寿
- 08 指導案「合意形成に向けて話し合おう 模擬進路会議」……大垣市立上石津学園 片山 博寿
- 09 書くこと部会 令和7年度の研究……瑞浪市立瑞浪北中学校 山崎 雅
- 10 指導案「考えを効果的に伝えよう―多角的に分析して批評文を書く―」……瑞浪市立瑞浪北中学校 山崎 雅
- 11 読むこと部会 令和7年度の研究……高山市立日枝中学校 上條 亘
- 12 指導案「ヒューマノイド」……高山市立日枝中学校 上條 亘
- 13 言語文化部会 令和7年度の研究……可児市立蘇南中学校 加藤 祐輝
- 14 指導案「仁和寺にある法師 ―『徒然草』から」……可児市立蘇南中学校 加藤 祐輝
- 15 令和7年度実践記録ぎふこくご賞受賞者の論文及び指導案
……論文部門 ○○市立○○中学校 ○○ ○○
○○市立○○中学校 ○○ ○○
- 16 実践記録ぎふこくご賞 受賞者一覧
- 17 令和7年度県中国研役員・研究部員組織一覧
- 18 中学校国語科研究部会会則
- 19 裏表紙